

オル太 《耕す家：不確かな生成》 公開のご案内

耕す家

Cultivate House



謹啓 梅花の候、益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。平素は、オル太の活動にご高配、ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

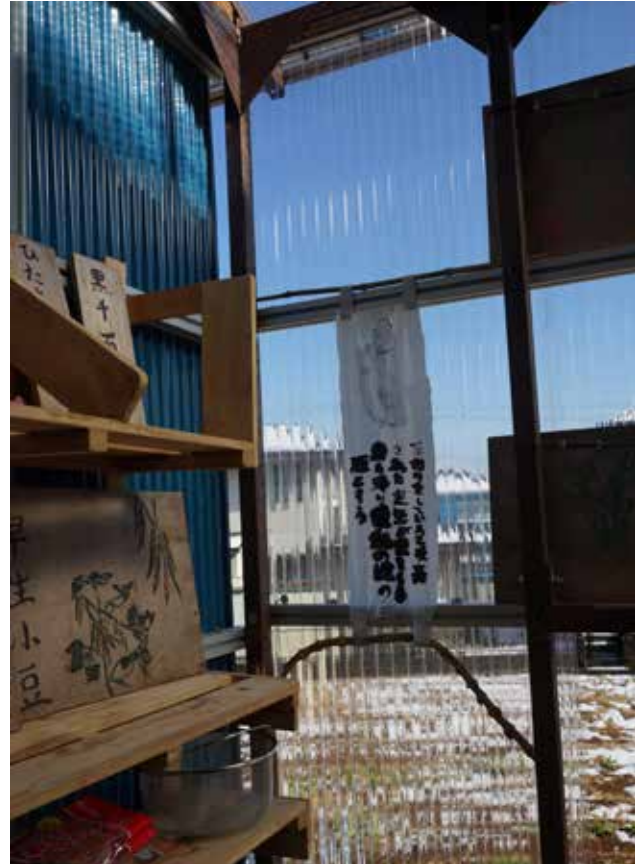
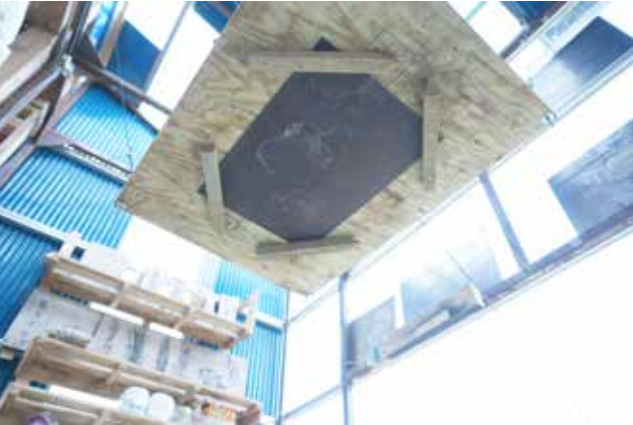
現在アーティスト・コレクティブ、オル太は、2020年度から2021年度にかけてアーカスプロジェクトのアーティスト・イン・レジデンスプログラムに選出され、今年度からは守谷に滞在して制作を行っています。

現在、守谷市内の土地に、小屋を建てて住みながら農耕を行う《耕す家：不確かな生成》を実施しております。

《耕す家》は2019年に千葉県北東部の水田にある不耕作地に建て、稲の収穫まで滞在し、農耕と芸術から活動する生を問うプロジェクトとして始動しました。独自で作られた移動可能な仮設建造物には、道具を置く「納屋」とベッドやコンポストトイレといった「家」としての機能を持ち、壁の一部は、舞台として畑の方へと開かれます。今回、使用されていなかった土地に仮設興行場としての建築許可を取得し、2021年4月より不耕起栽培から農作物を育て土壌や環境に合わせた農法を実践しています。また、この場所で拾ったプラスチックやアルミ缶などの人工的な素材を使用した版画、収穫した農作物のフロッタージュ、土地に自生している竹や葛を利用したオブジェクトを制作します。ここでの生活では、農作物を調理して食べ、排泄物を米ぬかや籾殻を利用して堆肥に変えます。空き地を起点として、自然との協同を見出します。

皆様のご来場を心よりお待ちしております。

謹白



《耕す家：不確かな生成》

日時：2022年2月2日（水）～3月14日（月）13:00-17:00

場所：茨城県守谷市内（お問合せいただいた方にお知らせいたします。）

※ご来場の際はメール（mail@olta.jp）にて、ご来場日時をお知らせください。

公開内容：

1. 《耕す家》内部
2. 農作物（国分鮮紅長人参、青首大根）の収穫
3. 粃殻燻炭で焼いた陶芸作品、竹細工、版画作品、アルミ缶日誌など
4. 大根や人参の葉で作ったお茶

装備：汚れても良い靴、暖かい服装

オル太

2009年に結成された6名（井上徹、川村和秀、斉藤隆文、長谷川義朗、メグ忍者、Jang-Chi）によるアーティスト・コレクティブ。創造行為、ひいては人間の根源的な欲求や感覚について、自らの身体をパフォーマンスという形で投げ、問いかけている。近年参加した主なパフォーマンスや展覧会に、『超衆芸術 スタンドプレー』（2020）、「青森 EARTH2019:いのち耕す場所 - 農業がひらくアートの未来」（2019）など。

<http://olta.jp>

お問い合わせ

mail@olta.jp